

# 安全の手引き

2020年12月改訂  
在ニカラグア日本国大使館

## 目次

はじめに .....	1
第1 防犯の手引き .....	1
1 基本的な心構え .....	1
2 ニカラグアにおける最近の犯罪発生状況 .....	2
3 防犯のための具体的注意事項 .....	3
(1) 住居（選択及び警備方法等）	
(2) 外出時	
(3) 生活	
4 交通事情と事故対策 .....	6
5 テロ・誘拐に対するチェックポイント .....	8
6 緊急連絡先 .....	9
(1) 簡単な緊急時の現地語表現	
第2 緊急事態対処マニュアル .....	11
1 平素の心構え・準備 .....	11
2 緊急時の行動 .....	12
3 緊急事態に備えてのチェックリスト .....	14

はじめに

中米では未だ最貧国に位置するニカラグアは、周辺諸国と比べ治安が安定していると言われていますが、都市部においても貧困地域では、頻繁に窃盗事件や強盗致傷事件が発生しておりますので、付近に近づかないことが重要です。更に、2018年4月に発生した社会騒乱後の外国資本撤退による経済不況、新型コロナウイルス感染症の影響による失業者の増加、恩赦による囚人の大量釈放などの要因が重なり、今後、治安が悪化する可能性があります。（当局の犯罪統計の速報値は非公表のため実態は不明ですが、民間調査会社「CID-Gallup」社の世論調査によれば、国民の体感治安は急激に悪化しています。）

犯罪被害に遭った人を分析すると昼夜を問わず歩行中に襲われていることが多く、近距離の移動であっても車両での移動をお勧め致します。

街中では、自動小銃や散弾銃等で武装した警察官や警備員をよく見かけます。日本とニカラグアの治安状況の違いを認識した上で、安全対策を講じ、「たびレジ」に登録する、ニュースを確認するなど最新の情報を入手して行動するようにしてください。

## 第1 防犯の手引き

### 1 基本的な心構え

中南米諸国と日本では治安情勢が大きく異なります。治安の違いを認識することが重要な心構えであり、防犯の第一歩です。「自分の安全は自分で守る」ことをしっかり認識して、以下の原則を守るよう心掛けてください。

#### (1) 安全のための3原則

##### ア 目立たない

華美な服装、貴金属類を身に着ける、高級ブランドのバッグ、スマートフォン等を持ち歩くなど目立つ格好をするのは禁物です。目立たず、できる限り現地に溶け込むような格好を心掛け、自ら犯罪を誘うような立ち振る舞いをしないように、十分注意してください。

##### イ 行動をパターン化しない

通勤、買い物、外食等で曜日、時間、道順をパターン化することは、犯罪者から見れば容易に襲撃計画を立てることのできる格好のターゲットとなり得ます。行動はパターン化しないよう心掛けてください。曜日、時間、道順のすべてを毎回変更するのは困難かもしれませんが、どれかひとつだけでも行動パターンを変更するだけでも効果があります。

##### ウ 用心を怠らない

常時、用心を怠らないようにすることは重要ですが、四六時中、気を張っていることは不可能です。出勤時、帰宅時は緊張を高く保ち、事務所内や自宅内ではリラックスするなど、緊張すべき時とリラックスする時のメリハリをつけるよう心掛けましょう。

(2) 正しい治安認識

UNODC（国連薬物犯罪事務所）の統計によると、2019年におけるニカラグアの殺人率（人口10万人当たりの殺人被害者数）は8.0人で、中米諸国の平均（28.1人）に比べると低く、中米の中では最も低いため、安全だと錯覚を起こしがちですが、国家警察の統計では、2019年の強盗事件は7,244件（前年比1,301件増）発生しております。また、貧富の差が大きいニカラグアでは、外国人は格好の標的となり得ます。

(3) 麻薬には手を出さない

麻薬は使用目的で所持した場合は禁固3年、運搬した場合は禁固15年の厳罰に処されます。麻薬関連の犯罪で日本人が逮捕される事案は、特にアジア、中南米地域で多く見られ、例えば、見知らぬ人から荷物を預けられ、麻薬の運び屋にされて、空港等で逮捕されるケースもありますので注意してください。

2 ニカラグアにおける最近の犯罪発生状況

(1) 犯罪統計

2019年の犯罪認知件数は、97,648件と前年に比べ27,127件増加しています。一方、殺人の発生件数は、515件と前年に比べ167件減少しています。強盗事件の発生件数は、7,244件と前年に比べ1,301件増加しています。

(2) 犯罪傾向

2018年4月発生 of 社会騒乱後、外国資本の撤退等により経済不況、新型コロナウイルスの感染者の拡大、恩赦による囚人の大量釈放も相まって、治安情勢が悪化する可能性があります。最近では、バイク二人乗りによる路上強盗、タクシー強盗、銀行から出たところを追跡され襲われる強盗事件、営業中のコンビニエンスストアに対する強盗事件が発生しています。いずれの事件も犯行の際には、刃物や拳銃などの凶器が使用されています。

マナグア市を始めとした主要都市及び観光都市においては、主に路上強盗、車上狙い、空き巣、スリ等に注意する必要があります。また、時間帯を問わず、乗合タクシー内において運転手や他の乗客による強盗が頻発していますので、流しのタクシーの利用はお勧めできません。

(3) 邦人の被害事例（2018年～2020年）

○ 恐喝

2018年3月14日（水）午後8時30分頃、被害者がマナグア市ロス・ロブレス地区の路上を一人で歩いていたところ、前方から来た男に所持していたカバンを渡すよう要求されたため、危険を察知した被害者が即座に鞆を差し出したところ、男は危害を加えることなく、仲間の男と共にオートバイで逃走した。

○ 強盗

2018年6月6日（水）午後2時30分頃、被害者2名がマナグア市ビジャ・サンタフェ地区の路上を歩いていたところ、後方から来たバイク乗りの二人組に拳銃を突きつけられたため、所持していた鞆を差し出したところ、男らは危害を加えることなくオートバイで逃走した。

○ 強盗

2018年12月14日午後6時頃、マナグア市内のショッピングセンター「ガレリア・サント・ドミンゴ」付近路上を被害者2名が歩いていたところ、若い男ら5、6名が後方から接近し、ナイフを突きつけて脅迫したため、所持していた鞆を差し出したところ、男らは危害を加えることなく走って逃走した。

○ 窃盗（置き引き）

2019年10月8日（火）午後4時頃、被害者は、リバス県からコスタリカ行きのバスに乗車し、その際、旅券・現金・パソコン・カード類等在中のリュックサックを網棚に乗せたところ、下車時に盗難被害に気づいたもの。

○ 窃盗（客室狙い）

2020年9月11日（金）午後1時から午後6時半までの間、マナグア市メトロセントロ付近に所在の一時滞在中のアパートメント・ホテルにおいて、被害者が外出した際、何者かが侵入し、スーツケース在中の現金を窃取したものの。

### 3 防犯のための具体的注意事項

#### (1) 住居（選択及び警備方法等）

##### ア 家屋の選択

ニカラグアは、未だ一戸建て家屋が主流で、マンション等の高層住宅は少ないことから、防犯対策上、特に注意する必要があります。

- 貧民地区や問題地域に隣接していないか。
- 住宅を取り巻く四方のうち三方は他の住宅に囲まれているか。
- 外塀は高く頑丈で、上部を有刺鉄線等で補強されているか。
- 門扉には強固な鍵があり、外塀と同じ高さがあるか。
- 車庫は住宅敷地内にあるか。
- 庭には照明があり、外部から侵入するための足場となる樹木等はないか。
- 玄関扉には二つ以上の錠前とドアチェーンが付いているか。
- 窓、玄関扉に鉄格子があるか。

##### イ 防犯対策

- 使用人や警備員は、友人や知人等の紹介による信頼できる人物を雇用するようしましょう。身上調査及び面接は可能な限り雇用前にしっかり行うよう心掛けてください。
- 警備会社に24時間の機械警備を依頼することも一案ですが、物的対策は人的

対策を補う補助的な警備と理解した上で活用して下さい。(人的・物的対策を組み合わせた防犯対策をお薦めします)。

## (2) 外出時

- いつも注意を怠らず、周囲の人に気を付けることが大切です。
- 華美な衣服や装飾品を身につけないようにしましょう。
- 車での移動中であっても、「ドアロックはしたか」、「手が入られるほど窓が開いていないか」等の注意が必要です。

※信号待ちで停車していた車の開いていた窓から手を入れてハンドバックを取られた事件、用事を済ませるために車を路肩に停車し、ドアのロックを解除したところ、突然、助手席に見知らぬ男が乗り込みナイフを突きつけられ、バッグを奪われるという事件も起こっており、駐車や信号で停車する際は、特にその周囲を確認する注意が必要です。

- 次のような場所は犯罪に巻き込まれやすい危険として、特に注意が必要です。
  - 路上にゴミがまとまって散乱している場所（市場周辺等）
  - 酔っ払い風の者が道端に立っている場所
  - 特にすることもなく数人の男がたむろしているような場所
  - 暗い空き地や駐車場、裏通り
- 夜間は徒歩による外出は控え、自動車を利用するようにしましょう。
- 都市部では拳銃やナイフを使った強盗事件が多く発生しています。中学生くらいの少年でも、近づいて来たら十分警戒しましょう。
- バスの中やバスターミナル周辺は、スリ、置引き、ひったくり等の犯罪が多く発生する場所です。被害者の多くは、バスを降りた瞬間から目をつけられ、暗がりや人気のない場所へ入ったのを見計らったところで襲われています。

※マナグアの国際バスターミナル周辺には低料金の宿が集中していますが、暗くなったら外出は絶対に避けてください。明るいうちに必要なことはすべて終わらせておくことが重要です。

## (3) 生活

### ア 家族

- 家族全員で安全について話し合い、関心を持つようにしましょう。
- 所在を明らかにし、常に連絡を取り合える態勢をとりましょう。
- 連絡はこまめに取り、安全の確認をしましょう。
- 通勤・通学経路は、安全を第一に考えて複数の経路を使い分けましょう。
- 緊急時の集合場所や連絡先等を予め家族全員で確認しておきましょう。

### イ 近隣者

- 近隣者と良好な関係を保つことは重要ですが、過度の期待や依頼は避けた方がよいでしょう。

- 不用意に庭先等へ物を出したままにしないよう注意しましょう。自分たちにとっては価値の低いものでも、他人にとっては異なる場合もあり、犯罪を誘発することにもつながります。

#### ウ 使用人

- 使用人は前任者・同僚等の信頼できる人から紹介を受けるようにしましょう。
- 雇用後は来訪者や電話の対応要領，安全上の心得をよく教え込みましょう。
- 万が一のため，使用人の身分証明書等のコピーをとっておきましょう。

#### エ 外出

- ガス栓を閉め，家の施錠を確実に行いましょう。
- ワンパターンの外出経路は避けましょう。
- 携帯電話の紛失・盗難に備え，家族，友人の電話番号は別途控えておきましょう。
- 自動車の点検は日頃からこまめに行いましょう（ブレーキランプ等の電球切れ，パンクの有無等，運行前点検を実施しましょう。）
- 自動車の燃料は常に満タンにするよう心掛けましょう。

#### オ 電話

- 電話のそばに緊急連絡表を置いておきましょう。
- むやみやたらに，こちらから自分の名前を名乗らないようにしましょう。
- 不用意に自宅・携帯電話の番号などを教えないようにしましょう。
- 無言電話，頻繁にある間違い電話は，犯人が犯行前に行う所在確認（誘拐，空き巣の兆候）の可能性もあるので注意しましょう。

#### カ 郵便物

- 自分宛でないものはもちろん，差出人の記載がないもの，あるいは見知らぬ人からの郵便物は，確認が出来るまで受け取らないようにしましょう。
- 大ききのわりに重いもの，重さに偏りがあるもの，コード線のようなものが見えるもの，耳を当てると「カチカチ」と時計の音のようなものが聞こえる，包装紙が油で汚れている荷物などは，絶対に開封しないでください。

#### キ 鍵

- 鍵は常時携帯し，保管・携帯時にも十分注意しましょう。
- 使用人に鍵を貸与することは出来る限り避けましょう。
- 入居時には，重要な箇所の鍵（錠前）は交換しましょう。
- 玄関扉には，ワンドア・ツーロック（扉1枚につき2つ以上の鍵を装備）をお勧めします。

#### ク 長期旅行（帰国）等

- 警備員あるいは使用人，ホストファミリーが24時間自宅にいる状況を作るよう心掛けましょう。

- 会社の同僚や友人・知人に、時々点検してもらうよう依頼しましょう。
- 自動タイマー式か感光式照明の設置を検討しましょう。
- 旅行日程は使用人や警備員に言わないようにしましょう。

#### ケ 非常食等

- 自然災害やクーデター、道路封鎖による物流の低下などによって飲料水・食料が入手できなくなる事態を常に想定しておいてください。
- 家族が10日くらいの生活を維持できる食料、飲料水を日頃から備蓄しておきましょう。
- 携帯電話の充電器、ラジオを準備しましょう。

## 4 交通事情と事故対策

### (1) 交通事情

2019年の交通事故死者数は846人（前年比+120人）です。事故の主な原因は、車間距離の不保持、強引な車線変更、禁止場所での転回です。この他、割り込み運転や交通標識を守らないドライバーの低い規範意識、飲酒運転による技術の低下、無謀な歩行者、劣悪な交通インフラ等も事故発生の本格的な要因となっています。

### (2) 事故対策

#### ア 道路

##### ○ 都市部

都市部の幹線道路はアスファルト又は敷石により舗装されていますが、道路の陥没、蓋のないマンホール、放置された建築資材等の道路上の危険は多数存在します。また、至る所に「ポリシア・アコスターダ」と呼ばれる減速帯（凸型路面）が設置されているため、通行には注意が必要です。

##### ○ 国道・地方道

太平洋側の都市間を繋ぐ国道の大半はアスファルト舗装されていますが、基本的には片側一車線であるため、低速走行するトラック、バイク型タクシー、牛車・馬車を追い越す際は、禁止区間ではないことを確認の上、高速走行する対向車及び後方の二重追い越しの車両に十分注意する必要があります。

カリブ海側への都市に続く道路は、未だに未舗装の道路が多く、雨期には道路が冠水して不通となり、又はぬかるみにタイヤがハマり、車両が立ち往生するなどの光景をしばしば見かけます。乾期には、粉塵や雨期にできた水流跡の激しい凹凸等により、通行が不便な道路が多数存在します。

#### イ 信号交差点

ニカラグアには都市部の中でも限られた箇所には信号はありません。そのため、停車する自動車を対象に、窓ふきや物売りをする者や物乞いをする子どもが集まります。また、車椅子の障害者等は信号が変わってもその場を離れず、車線上に居座る

ため、信号交差点を通過する時は特に注意が必要です。

#### ウ ロトンダ（環状交差点）

主要幹線道路の交差点には「ロトンダ」と呼ばれる環状交差点（ロータリー交差点）があり、通過する車両は、一定の規則に従って反時計回りに通行しなければなりません。ロトンダ内では追い越し、駐停車、車線変更等は禁止で、ロトンダ内の車両が優先されます。

##### ○ 左折又はUターンする場合

片側二車線の道路からロトンダ内に進入し、ロトンダを左折（270度方向）又はUターン（360度方向）する場合は、二車線道路の左側の車線からロトンダ内に進入し、ロトンダの内側の車線を左折時は270度、Uターン時は360度走行し、右ウィンカーを点滅させながらロトンダを離脱します。

##### ○ 右折する場合

右折（90度方向）する場合は、二車線道路の右側の車線からロトンダに進入し、ロトンダ内の外側の車線を90度走行して、右ウィンカーを点滅させながらロトンダを離脱します。

##### ○ 直進する場合

直進する場合は、二車線道路のいずれかの車線からロトンダに進入し、180度走行して、右ウィンカーを点滅させながらロトンダを離脱します。

#### エ 車両

##### ○ オートバイ

ニカラグアでは、250ccクラスのオートバイが主流で、渋滞中は車両の間を縫うように走行する者や、ノーヘル、無灯火で運転する者、運転席と後部座席の間に小さな子どもを乗せている者も多くいるため、一度接触すれば大けがを伴う事故に発展する可能性があり、非常に危険です。

##### ○ バス

市内を走るバスは年式が古いものが多く、黒煙を吐きながら走行しています。急停車、強引な割り込み、ロトンダ内での車線変更等の交通違反や整備不良のため、度々交通事故が発生し、渋滞の大きな原因となっています。

##### ○ タクシー

流しのタクシーは乗合式で、料金は運転手との交渉で決定するため、渋滞中であっても客を発見すると停車して値段交渉を始めるなど渋滞や事故の大きな原因となっています。また、バス同様、運転マナーが悪く、急停車、強引な割り込みを繰り返すため、一定の距離をおいて運転する必要があります。

##### ○ 牛車・馬車

牛車や馬車は、農家の交通・運搬手段として未だ多く利用され、都市部の幹線道路においても自動車と同様に走行しているため、追い越す際は、一定の距離を保ち、

慎重に通過する必要があります。また、農村部では道路脇に牛や馬を放し飼いにしており、幹線道路を渡る際に自動車と衝突する事故も度々発生しています。

## 5 テロ・誘拐に対するチェックポイント

### (1) テロ・誘拐の現状

中米諸国における ISIL を始めとしたイスラム過激派によるテロの脅威は以前低いとされていますが、中東・アフリカを中心としたテロの脅威は、SNS 等の利用により、今やヨーロッパ、アジア、北米に拡散しており、中米地域においてもいつどこでテロが発生するかわからないのが現状です。

北部高山地帯（北アトランティコ自治地域）には、麻薬関連の犯罪が報じられています。治安当局は米国とも協力しながら取締りを強化しており、一定の治安が確保されていますが、突発的に犯罪に巻き込まれる恐れもありますので十分注意してください。

### (2) 爆弾テロ

ア 爆発音が聞こえたらすぐにその場に伏せる。

イ 動けるようなら周囲に注意しつつ直ちに爆発現場から離れる。

ウ 遮蔽物に隠れる。

エ 万一、閉じ込められた場合は

○ 鼻と口を覆い粉塵を吸い込まないようにする。

○ 携帯電話があれば、助けを求めるメッセージを送信し、その後は定期的に生存を伝えるメールを一定間隔で発信する。電池残量が不安なら必要時以外電源を切る。

○ 救助を呼ぶ場合は、金属を叩くなど人工的な音を一定の間隔で出す（声を出すのは体力を消耗する）。

### (3) 銃乱射事件

ア 発砲音が聞こえたらすぐにその場に伏せ、その状態で発砲音の音源を確認する。

イ 銃撃犯は動くものに反応するため、伏せたまま不用意に動かない。

ウ 犯人に遭遇する可能性が低い場合や犯人から距離（数百メートル）がある場合は、身を低くしたままその場を離れる。

エ 避難することができない場合は隠れて救助を待つ。

### (4) 誘拐対策

ア 不審な電話がかかってくる場合は、迷わず警察に相談する。

イ 自宅出入りの際に周囲に不審な人物や車がないか確認する。

ウ 通勤コース、出勤時間等生活行動をパターン化しない。

エ 自分の車が追跡されていないか注意する。

## 6 緊急連絡先

(1) 在ニカラグア日本国大使館

Plaza España 1c. Abajo, 1c. al lago, Bolonia, Managua

電話：(505) 2266-8668～8671

FAX：(505) 2266-8566

開館時間：午前 8：00～12：00 午後 1：00～4：00

休館日：土曜日，日曜日，祝祭日

※閉館時間帯の対応

休祭日，夜間，緊急時も番号は上記と同じです。

①上記番号（大使館）をダイヤル

②呼び出し音の後，応答メッセージに繋がり日本語を選択すると，日本語によるメッセージが流れます。

③メッセージ終了後，しばらく待つと 24 時間常駐の警備員が応答（スペイン語）しますが，急を要する場合には直接領事まで連絡してください。

【領事緊急携帯電話：(+505) 8853-3130】

(2) その他緊急連絡先

警察（事件・交通事故）：118（携帯からは\*118）

消防：115, 120（携帯からは\*911）

救急：128（赤十字）

病院：メトロポリターノ・ヴィヴィアンペラス病院 2255-6900（代）

緊急内線 85163

：パウティスタ病院 2249-9020（代）救急内線 4040

：軍病院 2222-2763（代）

入国管理局：2244-3983

(3) 警察・消防・救急への通報方法

緊急事態発生時，当局に通報するときは，まず，周囲の人に協力を求めてください。

協力を得られないときは，以下の3つの内容をゆっくり正確に伝えることが必要です。

ア 何があったか

通報時は，「Ladrón（泥棒）」，「Accidente（交通事故）」，「Incendio（火事）」等の単語を伝えるだけで事案の内容を把握することができます。必ずしも詳しく説明する必要はありません。

イ 来てほしい場所

自宅の住所をあらかじめ把握しておき，ゆっくり正確に伝えましょう。また，より分かり易く説明するため，目標物（ホテル，ロトンダ，信号）からの位置を説明できるようにしておきましょう。

外出先では，地図アプリの GPS 機能を利用して，近隣の町，目標物等からの方角及び大まかな距離を伝えましょう。

ウ 氏名・連絡先

最後に、通報者の氏名・連絡先を伝え、その後の連絡手段を確保します。

(4) 緊急時の言葉

- 泥棒 : Ladrón (ラドロロン)
- 強盗 : Robo (ロボ)
- 事故 : Accidente (アクシデンテ)
- 火事 : Incendio (インセンディオ)
- 救急車 : Ambulancia (アンブランシア)
- 警察 : Policía (ポリシーア)
- 消防車 : Bomberos (ボンベーロス)

## 第2 緊急事態対処マニュアル

### 1 平素の心構え・準備

#### (1) 連絡体制の整備

##### ア 在留届

###### ○ 届出

ニカラグアに3ヶ月以上滞在される邦人の方は、在留届を当館窓口又は下記 URL において確実に提出してください。

(在留届 : <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/>)

###### ○ 更新・抹消

当大使館では提出いただいた在留届を元に、Eメール、携帯電話による緊急連絡網を作成しております。引っ越し、転勤等の理由により記載事項に変更が生じた場合、又は帰国した場合は、速やかに当館領事班にお知らせください。

##### イ たびレジ

滞在期間が3ヶ月未満の方は、たびレジをご利用ください。

※たびレジとは

たびレジは、海外旅行や海外出張される方が、旅行日程、滞在先、連絡先等を登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール等が受け取れるシステムです。

(たびレジ登録 : <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

##### ウ 家族、同僚等との連携

大規模災害等緊急事態はいつ起こるとも限りません。そのような場合に備え、家族、職場内での緊急連絡方法について予め決めておいてください。また、日頃からお互いの所在を明確にするようにしておいてください。

#### (2) 大使館からの情報入手方法

緊急事態発生の際には、当大使館から一斉メールを発信し、又は緊急連絡網を通じて情報を提供します。しかし、電話回線等が使用できなくなった場合には、避難所や自宅を戸別訪問して安否確認を実施します。

#### (3) 一時避難場所及び緊急時避難先

##### ア 一時避難場所

内乱などによる戦闘、騒乱に巻き込まれる可能性がある場合、常に周囲の状況に注意を払い、情報を収集し危険な場所に近づかないことを心掛けてください。また、巻き込まれそうになった場合の取りあえずの避難場所について、常日頃から頭に入れておくことが重要です。その際、勤務先、通勤途上、自宅等いくつかのケースを予め想定して各自の一時避難場所を検討しておいてください。特に海岸に近い方は、津波に備えた高台の避難場所も検討して下さい。(外部との連絡可能な場所が望ましい。)

## イ 緊急時避難先

当大使館より、緊急事態発生時の状況及び居住地に応じて、緊急時避難先への集結を指示することがあります。当館が指定するマナグア居住者への緊急時避難先は日本大使館です。万が一に備え、避難先の位置を確認し、そこに至る複数のルートを検討しておいてください。

### (4) 緊急事態における携行品等、非常用物資の準備

ア 旅券、現金等最低限必要な物は、直ちに持ち出せるよう予めまとめて保管しておいてください。

イ 車の燃料は常日頃から満タンにするようにしてください。また、自分の車は満タンで何 km 位走行可能（どこまで待避が可能）か確認しておいてください。

ウ 緊急時には一定期間自宅での待機をお願いすることもありますので、一人当たり 10 日分程度の非常食、医薬品、燃料等を準備備蓄しておいてください。

## 2 緊急時の行動

### (1) 基本的心構え

緊急事態が発生し、又は発生するおそれのある場合に、当大使館は邦人の皆様の保護に万全を期するため、所要の情報収集、情勢判断及び対策の策定を行い、緊急連絡網を通じ随時通報いたします。平静を保ち、流言飛語に惑わされたり、群集心理に巻き込まれたりすることのないよう注意してください

### (2) 情勢の把握

当大使館からの連絡は、一斉メールの送信又は電話により連絡致します。

### (3) 情報収集

緊急事態発生の際には、現地報道、インターネットなどによる情報収集を各自心掛けてください。

#### 【情報発信メディア】

##### ① 地震

J I S <http://j-jis.com/world/>

##### ② 津波

Pacific Tsunami Warning Center <http://ptwc.weather.gov/>

##### ③ ハリケーン

National Hurricane Center <http://www.nhc.noaa.gov/?epac>

##### ④ ニカラグア自然災害

SINAPRED (国家防災機構) <http://www.sinapred.gob.ni/>

INETER (ニカラグア国土地理院) <https://www.ineter.gob.ni/>

##### ⑤ NHK ワールドラジオ海外安全情報 <https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/enzen/>

##### ⑥ 地元メディア

La Prensa 紙 <https://www.laprensa.com.ni/>

El Nuevo Diario 紙 <https://www.elnuevodiario.com.ni/>

El 19 Digital <https://www.el19digital.com/>

(4) 当大使館への通報等

- ① 現場の状況のうち通報する必要があると思われるものは、随時、当大使館に通報してください。他の在留邦人の方への貴重かつ生きた情報となります。
- ② ご自身、ご家族、若しくは他の邦人に危害が及び、又は及ぶおそれがある場合は、迅速かつ具体的にその状況を当大使館に速報してください。
- ③ 緊急事態発生の際には、お互いに助け合って対応することも必要になります。当大使館から在留邦人の皆様に種々のご協力をお願いすることもありますのでご了承ください。

(5) 国外への退避

ア 各自で退避する場合

- ① 国内治安情勢が悪化し、各自、派遣先の会社等の判断により、帰国又は第三国へ退避する場合は、その旨を当大使館にも連絡してください。（当館への連絡が困難な場合は、日本の外務省海外邦人安全課へ連絡するようお願いいたします。）
- ② 「退避を勧告します」、又は「渡航の延期をおすすめします」（退避に関する情報を含む）が発出された場合には、一般商業フライト便が運行している間に、可能な限り早急に国外へ退避するようにしてください。
- ③ 一般商業フライト便の運行が停止された場合、又は座席の確保が著しく困難となった場合には、チャーター便（この利用に当たっては通常は片道エコノミー正規料金の支払いが必要となります。）や状況によっては、陸路、海路を利用して退避することが必要となる場合もありますので、当大使館の指示に従うようにしてください。

イ 当大使館より退避又は避難のための集結を指示された場合

- ① 事態が切迫し当大使館より退避又は避難のための集結を指示された場合には、出来る限り迅速かつ安全に指定された緊急時避難先（日本大使館）に集結してください。
- ② しばらくの間、避難先で待機する必要がある場合も想定されますので、可能な限り非常用物資を持参されるようお願いいたします。
- ③ 緊急時にはご自身及びご家族の安全を第一に考え、携行荷物は最小限にしていたくようお願いいたします。

(6) 退避ルート

ア 空路

マナグア国際空港から国外へ

## イ 陸路

### (ア) コスタリカへ

- ① リバス県ペーニャス・ブランカス  
(マナグアから約 150km)
- ② リオ・サン・フアン県ラス・タビージャス (マナグアから約 300km)

### (イ) ホンジュラスへ

- ① チナンデガ県グアサウレ (マナグアから約 200km)
- ② マドリス県エル・エスピノ (マナグアから約 240km)
- ③ ヌエバ・セゴビア県ラス・manos (マナグアから約 250km)

#### 【陸路にて国外に向かう場合の準備書類】

あらかじめ旅券、車検証（保険証）、運転免許証等のコピーを取っておくと手続きがスムーズに運びます。なお、同一車両を複数の運転手が運転する場合には、運転手全員分の運転免許証をコピーしておいてください。

## 3 緊急事態に備えてのチェックリスト

### (1) 旅券

- 常時6ヶ月以上の残存有効期間があることを確認しておいてください。
- 6ヶ月以下の場合には当大使館に旅券更新の申請を行ってください。
- 旅券の最終頁の「所持人記入欄」は漏れなく記載しておいてください。
- 下段に血液型 (blood type) 「O型」と記入しておいてください。
- 外国人登録証、滞在許可証等はいつでも持ち出せる状態にしておいてください。

### (2) 現金、貴金属、預金通帳、有価証券、クレジットカード

10日間程度生活できる外貨及び現地通貨（小銭も準備）を用意しておくことをお勧めします。なお、出国する場合の出国税及び空港使用税の用意も必要です。

### (3) 自動車の整備

#### ア 自動車をお持ちの方

- 常時整備しておくように心掛けてください。
- 燃料は常時十分入れておくようにしてください。
- 定期的にスペアタイヤの空気圧をチェックしておいてください。
- 車内には、懐中電灯、地図、ティッシュ、ビニール袋等を備え置きください。

#### イ 自動車をお持ちでない方

近くに住む自動車を持っている人と日頃から連絡を取り、必要な場合に同乗させてもらえるように協力依頼をしておいてください。

### (4) 携行品の準備

避難場所への移動を必要とする事態に備え、旅券、現金等に加え次の携行品を備えておき、直ぐに持ち出せるようにしておいてください。

- 衣類・着替え（長袖，長ズボンが賢明。行動に便利で人目を引くような華美なものでないもの，麻，綿等吸湿性，耐暑性に富む素材が望ましい。）
- 履物（行動に便利で靴底の厚い頑丈なもの）
- 洗面用具（タオル，歯磨きセット，石けん等）
- 非常用食糧（約 10 日分）
  - 米，調味料，缶詰類，インスタント食品，粉ミルク等の保存食及びミネラルウォーター
- 衛生用品，医薬品等
  - 家族用常備薬，常用薬，外傷薬，消毒用石けん，衛生綿，包帯，絆創膏，トイレットペーパー，生理用品等
- その他
  - 懐中電灯，電池，ライター，ろうそく，ナイフ，缶切り，栓抜き，プラスチック製の食器，割り箸，固形燃料，簡単な炊事用具，ビニール袋，ヘルメット，防災頭巾（応急には椅子用クッション）。